

2015年 3月 13日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 喜 多 悦 子 殿

2014年度奨学金支援

完 了 報 告 書

所属機関・職 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野
大学院生 看護師
氏名 重野 朋子

2014年度奨学金支援 完了報告書

1. がん看護専門看護師認定に必要な単位の取得について

がん看護専門看護師認定に必要な単位として、2014年4月～2015年3月の期間で以下の単位を取得した。

◆理論看護学アプローチ

看護学の科学的・哲学的基盤を理解するために科学哲学を学んだ。科学とは何かということ学ぶことにより、科学的な研究とはどのように行われるべきであることを学ぶことができた。

◆コンサルテーション論

看護実践におけるコンサルテーションの理論と実際を学んだ。コンサルテーションの機能や組織内におけるコンサルテーションのシステム化が必要であることを学んだ。

◆看護学研究方法論

研究過程の外観をとおして、量的・質的研究方法の方法論を学んだ。

◆看護倫理

学生同士で、看護における倫理的側面について様々な視点でディスカッションを行い、倫理的意思決定に必要な知識と倫理的感受性、道徳的推論能力について学んだ。

◆フィジカルアセスメント

健康な対象の身体状況を実際に観察しアセスメントを行うことにより、複雑な健康問題をもった対象の身体状況を審査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術について学んだ。

◆病態生理学

エビデンスに基づいて、対象の病態生理学的症候とその動態を的確にとらえ、理解し判断するために必要な知識と技術について、e-learningを通して学んだ。

◆臨床薬理学

緊急応急措置、症状緩和、慢性疾患に対して必要な薬剤を中心に、薬剤の基本的な薬理機序を理解し、投薬判断、投薬後の患者モニタリング、患者の服薬管理能力を向上させるための知識・能力について、e-learningを通して学んだ。

◆がん診療トレーニング

腫瘍学全般の知識を身につけるために、腫瘍内科と放射線治療科において見学実習を行い、抗がん剤、放射線の各治療方法ならびに画像診断の基礎および臨床について学んだ。

◆がん看護学特論Ⅰ

がんの罹患や治療による影響を受けた個人とその家族を理解するために必要な概念や理論について学んだ。

◆がん看護セミナーⅠ、Ⅱ

受診・診断から終末期までにおいて、がん患者と家族の身体的・心理的・社会的側面についてアセスメントを行い、意思決定を支える看護について学んだ。
また、がん看護専門看護師の役割についても学んだ。

◆緩和ケア看護学特論Ⅰ、Ⅱ

緩和ケア看護学の分野において研究対象となる患者の脆弱性を理解して研究を行うために、研究方法や倫理的配慮について学んだ。

◆がん看護専門看護学実習Ⅰ

見学実習を行うことにより、がん看護専門看護師の役割や機能を発揮するために必要な知識、技術、態度について体験的に学んだ。

2. 研究について

宮下光令教授の指導の下、平成25・26年度 厚生労働科学研究費指定研究「がん診療拠点病院におけるがん患者の鎮痛水準を規定する評価手法の開発に関する研究」に協力し、宮城県内のがん診療連携拠点病院において、がん患者様の疼痛に関する研究を行っている。
この研究を修士論文としてまとめる予定である。

3. がん看護専門看護師として活動するための課題について

がん看護専門看護学実習Ⅰを終了し、がん看護専門看護師の組織での役割について学んだ。
がん看護専門看護師の6つの役割(実践、相談、教育、調整、倫理調整、研究)を担うために、理論と実践を統合する能力、自己や他者の能力や特徴を理解する能力など、多くの能力が必要となることが分かった。
今後も実習や学習を通して自己の課題を明確にし、一つ一つ自分のものにできるよう努力していきたい。

4. 謝辞

2014年度奨学金支援をいただき、学習に専念することができた。また、多くの学会や勉強会に参加することができた。この1年間で学んだことを来年度に活かして、がん看護専門看護師になるために一層研鑽を積んでいきたい。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。